

第3回 ふくしま元気トーク まとめ

【開催概要】

日時	令和3年2月21日（日） 午前10時30分～正午
テーマ	生涯住みたいまち ふくしま
場所	街なか交流館2階（辰巳屋ビル2階） 多目的交流スペース
出席者	福島市を創る高校生ネットワーク（FCN）の学生 計8名 (1) 菅野 美月さん (4) 阿部 弥琴さん (7) 穴戸 菜々美さん (2) 山川 蒼奈さん (5) 佐久間 裕貴さん (8) 七島 海希さん (3) 齋藤 望乃さん (6) 三浦 夢乃さん (福島市) 木幡市長



【1 市長あいさつ】

今回は、初めて高校生、中学生も含めた若い皆さんと話し合いをさせていただきます。

東日本大震災から10年が過ぎようとしています。復興として前に進んできましたが、まだまだ風評とか解消し切れていませんし、そうした中で、おととの台風19号とかコロナ、そしてまた地震ということで、災難が相次いでいて、前に進むにはハードルがいろいろと横たわっているのが現状です。

我々も将来のため、今のために頑張っていきますが、やっぱり大事なものは、今度の市の新しい計画にも入れるんですけども、持続可能性という将来にわたってもやっていけるようなまちをつくる、あるいは皆さんが生活していけるようなまちをつくることだと思います。

そのためには、今の時代を決めたり動かしている世代だけではなくて、将来世代の皆さんこそ、積極的に参加して、主力になってほしいなと私は思っています。

皆さんに受け入れられるまちにしてこそ福島の将来はあると思うので、今日は普段から考えていることを積極的に言ってほしいなと思います。私も皆さんのイベントを見に行ったりしているので、いろいろ活動しているのは多少なりとも知っているつもりです。今日は、自分たちのこれまでの活動の結果を話すだけでなく、そういうところに入り切れない自分の思いとか、いろいろな視点をお話いただければなと思います。



【2 主な発言内容】

※●…出席者意見 ○…市長意見

(1) 自身の活動について

●菅野 美月さん

昨年の高校生フェスティバルではタウンプランニングというブースを担当させていただきました。そこで、来場者の思いを直接聞いて、普段どう思って過ごしているのか分ることができました。

●山川 蒼奈さん

今年度、僕は高校生フェスティバル実行委員長を務めて、苦しいことや辛いことがたくさんありましたが、開催まで持っていったことが、自分や周りにとって自信につながりました。最後まで諦めないことが大切だと学ぶことができました。

●齋藤 望乃さん

F C Nではタウンプランニングのサポートを担当しています。将来、福島を盛り上げる仕事に携わりたいと思っているので、F C Nの活動や国際会議などに参加し、様々な知識を積んでいます。

●阿部 弥琴さん

F C Nではタウンプランニンググループに所属していて、福島のまちづくりについて考えてきました。高校の課題探求では、福島における地産地消による地域活性化について研究をしています。

●佐久間 裕貴さん

F C Nでは写真ブースと配信を担当しています。コミュニケーション能力や実行力などの基本的な力から、福島を盛り上げたいという意思を活動から学びました。今回は、目標である、同じ年齢層が集まれるコミュニティをつくるという考えのヒントになるようなものをつかめたらいいなと思っています。

●三浦 夢乃さん

今年度の高校生フェスティバルではステージを担当しました。企画や運営、司会なども経験し、たくさんのことが身についたと思います。私たちが企画した高校生クイズをつくるにあたっては、福島市のことをたくさん学ぶことができました。



●宍戸 菜々美さん

F C Nに入った理由は、夢乃さんに紹介してもらったことと、高校生フェスティバルでF C Nに興味を持ったことも理由の一つです。同じ高校生が主体となってフェスティバルを盛り上げようとする姿が強く印象に残りました。

●七島 海希さん

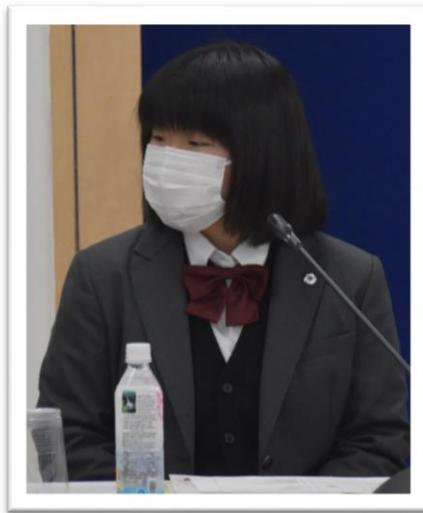
私は、小学4年生の頃からまちづくり活動をしています。今、私たちは新しい教育プラットフォームを開発していて、3月の国際的なワークショップでお披露目となり、4月から始まる新しいプロジェクトで世界的な実験として使っていただけることになっています。

市長

○高校生フェスティバルの話がでましたが、皆さん企画や運営で苦労されだろうし、コロナウイルスの対策を取ってやってくれたというのは、私はすばらしいと思います。オンライン配信は、市役所のイベントよりも進んでいるんじゃないかなんて思ったりもしました。また、対策もきっちりやってくれて、実際パフォーマンスする人とステージ別にして、パフォーマンスの飛沫とかが飛ばないように工夫してたことはすごいななんて、私は思っていました。

(2) 生涯住み続けたいまちとはどんなまちか？

- 大人も子どもも楽しめるようなイベントがあるまちです。
たまに福島駅前付近でビールイベントが開かれています、子どもも楽しめるようなイベントとして、子ども会とか運動会みたいな、みんなで盛り上がるようなイベントがもっとあったらいいなと思いました。
- 自分の意見をみんなに表現できるような場所があるまちです。
高校生フェスティバルのときに、私たちが思っている以上に市民の方はいろいろなことを考えているなと思ったので、市民の方全体に聞いたらもっと意見があって面白いのかなと思いました。
- 横のつながりが強いまちです。地震や災害が起きたときに、近所の方とつながりがない方も多いと思うので、市全体でもつながりを持てたらいいのかなと思いました。私は川俣町民なのですが、川俣町では近所の方だけじゃなくて町全体で挨拶をします。福島市は誰も挨拶をしていなくてびっくりしたので、挨拶からつながれたらいいのかなと思います。
- 地元市民がもっと交流できる場所があるまちです。福島市内に様々なコミュニティ施設がありますが、行ってみると年齢層が限られていて、日常の中で交流できる場所があれば、さらに福島市民が仲良くなり、相談できる相手が増えて、不安解消につながると思いました。
- イベントなど何かを目当てに市民の方が帰ってこられる場所があるまちです。このイベントがあるからこの期間だけは福島に帰ってこようと思えるイベントがあれば、もっと盛り上がると思います。県外の方にも福島市を知ってもらえるきっかけになると思います。
- 日常と非日常を混ぜ合わせたような場所があるまちです。日常だけを過ごしては疲れてしまいますし、退屈になってしまうので、そこに非日常が加わるとアクティブで元気なまちになるのかなと思います。
- 若者に「福島って何もないよね」と言わせないようなまちです。私自身、福島市で何かすると言ったときに、いつも同じようなことをしたり、福島って何もないというお話になってしまうのがすごく残念に思っています。魅力を知ってもらい、さらに盛り上げる必要があると思います。



●活気や未来をつくる人材が希望を持てるようなまちです。
若い人が福島市は何もないからと市外に行ってしまうではなく、福島だからもっと盛り上げたいんだという人が増えるまちがいいなと思います。

●高齢者・障がい者・外国人の方々も過ごしやすい町なかや交通機関が整っているまちです。私自身も通学時にバスが遅れて時間に間に合わなかったり、友達からも本数が少ないという話をよく聞きます。

●人のつながりを大切にした活気あるまちです。いろいろな人が集まって話をできたり、高齢者の方々とお話をしたりとかなど、様々なつながりがあるということは活気があることだと思います。



●生産者と消費者の距離が近いまちです。農産物直売所の利用を活性化することによって、距離が近いまちになると考えます。

農産物直売所の利用者、生産者と消費者は高齢化が進んでいるので、広報紙などを作って若者を呼び込むのと、農産物直売所を介して、生産者と保育園のつながりをつくり、保育園児の親に伝えてもらったり、イベントを通じたもので集客を図るということを考えています。また、スーパーにインショップ・農産物直売所のコーナーをつくると、規格外の商品でも販売できたり、生産者の顔が見えたり、農産物直売所のよさを知ってもらえると思います。

●アオウゼのような学習スペースがあるまちです。学生が学校帰りに市内の駅前周辺で勉強した後に、気になっていたお店に行ったりすれば、活性化につながると思います。

●広い年齢層の人がある程度共通して需要のある物を買えるまちです。福島市内で若い人からお年寄りの方まで需要のある物を気軽に買えたらなと思いました。

●老後の暮らしやすい環境が整っているまちです。バリアフリー化や、コミュニティ施設にお年寄りが集まって将棋とかできたらなと思っています。

●スーパーなどが近くて買い物を気軽にできるまちです。遠出になると自転車や車が必要になって大変だと思うので、歩いて行ける距離にスーパーや小売店があるまちがいいなと思いました。



●同じ年齢層が気軽に集まれるコミュニティがあるまちです。学生同士で気軽に集まることはファミレスとかでもできますが、できることが限られているので、やりたいことのできるスペースがあったらいいなと考えました。

●道にごみ一つもないきれいなまちです。私は町の研修でシンガポールに行ったことがあります。シンガポールはごみがないきれいな国で有名です。法律もありますが、とてもきれいで、福島もこんなきれいなまちだったらいいなと思いました。

●障がい者やお年寄りの方にとって過ごしやすいまちです。まちを歩いていて、高齢者や障がい者の方をお見かけして、すごい大変そうだなと感じ、もっと過ごしやすいまちにならないかなとか思いました。

- 子どもからお年寄り、外国人の方が安心して暮らせるまちだと思います。災害が起こったときにどうすればいいかが分かることが1つの方法だと思いました。通学時など、いつ災害が起きても大丈夫のように、交通機関などの人目につくところに、避難関係のポスターや地図を置くことを考えました。
- 県外に用事があって行ったときに、都会も楽しいですが、福島駅に着いて何か落ち着くなと思いました。私は福島市のほうが住みたいと思うまちだと思っていて、建物の魅力というよりは、人柄の魅力が大事だったりすると思います。
- 子どもも地域の方も一緒に考える場をつくっていききたいと思うので、自分でその場をつかみにいくというか、そういうシステムとかをつくっていききたいなというふうに思っています。

市長

- 全然意見言えないとか、コミュニケーションが十分できていない話が多かったですが、これは両方とも努力不足だと思っています。1つは役所側の問題で、やっているつもりだけれども、全然届いていないんです。見やすい工夫をして、届くようやらないきゃ駄目と私は強く言っています。
一方で、市民の皆さんも自分の言える場を声をかけてもらわないとできないとしか思っていないで、非常に受動的です。市は出前講座というのやっていて、例えばまちづくりについて話をして、意見交換してくださいと広聴広報課に言ってもらえば、市から誰か出て行って、意見交換の場がつかれます。
- 都会と人口の小さなところを比べると、コミュニティーの近さが違って、顔を合わせても誰か分からないからいいという面も実は都会ってあるんですね。
ただ、いざというときに困るので、我々も今工夫してそれぞれの地域でやっているつもりです。コミュニティーは大事で、みんながコミュニケーションできるものにしていきたいなと思います。
- 日本社会は上下関係をつくりがちな社会なんですよね。地域はお年寄りの人が力持っていて、若い人は言いづらいというのがあって、徐々に直してやらなきゃいけないなと思っています。



市長

○農産物直売所の広報はやっているけれども、響かないんですよ。仕掛けとか、言うのは簡単なんです。ぜひ、実際に直売所やっている人と私たちと一緒に企画してみませんかとやってみたらどうだろうか。市というよりは、直売所の場合、農協や地域の皆さんを中心にやっていますからね。

○地域で集まらないなら、オンラインでやりましようと言ったらいいですよ。使えない人には後で別なサポートしたり、使えるためのお助けをすることも大事なかなと思っています。

○交通の話は、お金の問題が出てきます。

利用者が少ないところは赤字になり、現実には福島市が大分税金補填しています。つまり、ほかのサービスを悪くせざるを得なくなってきました。赤字をできるだけ小さくするために本数減らしたりとか、場合によっては路線自体をなくすようなことにもなりかねないです。

○非日常的なものとして福島市でディズニーランド造れるのかといたら、東京と違って集まる人もいないので、身の丈に応じたものがある程度やっていかないと。むしろ福島市内の特徴に合わせたものを作って、東京とは差別化されるものでいろいろやっていかなきゃいけないですね。

○ごみのまちの話も出ましたが、福島市も条例はつくれないことないんです。日本はどうしても人の良識に依存してしまうケースがあって、思い切って条例化するというのはどうかな。

(⇒●ちょっと抵抗あるかなと思いますが、徹底するなら条例とかつくったらもう本当にきれいになると思います。)

あとはボランティアの人たちもやってくれています。ごみのないまちを願う人には、そういう活動に参加するなり自分で起こしてほしいなと思います。

○災害への対応は、我々もやるし、その人の自身が情報取ったりしないと幾らやっても多分駄目だと思います。

ポスターだと、例えば飯坂線だったら、停まる駅で避難場所とか全然変わりますよね。その場で対応できるような災害アプリみたいなのをやって、そこですぐに取りってもらえばいろいろな情報が出てくるとかいたら、みんな使うでしょうかね。

(⇒●アプリは使えると思います。今は学生でもスマートフォンを持っている方多いので、QRコードとかで、情報を手に入れやすくなると思います。)

○人柄の魅力は、助け合いとか挨拶とかをみんなでやるとにじみ出てくるのかなという感じもしますし、いろいろなイベントとか、おもてなしみたいなのが出てくるといいですよ。



- いろいろな年齢層の人や障がい者が住みやすいまちも出たんですけれども、福島市では共生社会に取り組んでいます。オリンピックの理念って、スポーツだけではなく、パラスポーツもあり、共生社会はすごく大きな理念なんです。差別しないでみんなを平等にかつ優しくすることが、ある意味オリンピックの精神なんですね。福島市では、先導的共生社会ホストタウンという取り組みをして、バリアフリーを進めたりしています。
- 世の中が動いていくためには、お金の問題で制限されます。人がいないところはスーパーにも人が行かなくなります。スーパーはできなくても、移動販売とかで補えるとも思えるんですね。理想は大事だけれども、それができないんだったら、他でどうするかを考えていかないと、解決策は導けないのかなという気がします。
- 僕は市長になる前に復興庁にいたんですけれども、実は復興庁では高校生のコンテストをやっていました。宮城では、水産の高校生が、名産のホヤの調理方法を提案して、自分で会社やるとかの動きがありました。
だから、自分でやってみたいということを形に表してやってみるというのはどうですか。それは、支援がないと自分たちだけではできないかもしれないけれどもどうですかね
(⇒●とてもいい案だと思うんですけれども、福島で活動するにあたって、こういう活動に否定的な意見もあるので、少し意識の改革が必要なのかなとも思います。)



(3) 誰もが参加したくなるイベント

- 小中高生を集めて、陸上競技場で大運動会を開けば、コロナで外に出られなかった分、元気を取り戻せると思います。学生だけじゃなくて、見ているお年寄りの方も元気をもらえるんじゃないかなと思います。大人も一緒にやれたら楽しいなと思います。
- みんなが来てくれるイベントは、みんなが必要とするイベントだと思っていて、教科書とか参考書とか本をバザーみたいな形で出品してみんなが買うようなものがあれば人が集まるんじゃないかなと思います。
- 東大五月祭で、昔使っていた参考書とかを安い価格で販売するというのがあるって、すごく魅力的だなと思いました。望む学校ごとにやっておいたほうがいいなみたいな教材があり、それを改めて買うとなると難しい部分があるので、買える場所があったらいいなと思います。もう売っていない本もあるので、そういう本に出会える機会が多くあったらいいなと思います。
- バザーは売る側も買う側も用意しないといけないのですが、何も用意しなくても気軽に参加できるようなものがあればいいのかなと思いましたが、具体的に思いつかないです。

- 市長** ○大運動会については、非常に意外でした。みんなが本当に出たいという気持ちを持っているんだったら、私としても考えてみようかなと思うんだけど、特に中高生の世代になると、部活で忙しいとか、自分たちで好きなような楽しみ方しているほうがいいやという感じなのかなと思っちゃうんだけど、違うのかな。
- 例えば駅前でイベントやっていても、おかしいと思うのは、幹部ばかりが集まって写真撮って盛り上がっているケースが多いんですよ。
いろいろな人を集めようと思ったら、ターゲットに合ったような感性が分かる人じゃないと、集められる企画ってできないと思うんですね。だから、いろんな人に企画に参加してもらってやらなきゃいけないなと思っています。今後、イベントに高校生も入ってもらったり、ここの部門は高校生に任せるよという感じでやってみるというのも一つの手かもしれないですね。ぜひそのときには、皆さんあるいは周りの人に声をかけて、入ってもらえるとありがたいなと思います。

(4) 市内の学習施設について

- 学習センターに行くまでの距離が長かったりとか、通学路じゃなかったりすると、どうしても足を運びにくい感じはあります。学習センターって本を読むスペースが多いように感じていて、堂々と勉強はしにくいと感じます。
- 学校帰りに友人と帰っていて勉強していこうと言って、気軽に使えるようなスペースであればいいのかなと思います。

- 市長** ○高校生の勉強スペースは、当然建設経費も運営経費もかかるんだけど、でもニーズが非常に高いというのはよく分かっています。ちなみに今回、渡利の学習センターには、そういうのもちょっと用意しました。



(5) 他市で感じるおもてなしの気持ち

- 国外の話になるんですが、台湾に行った際に、日本語で挨拶してくれたりとか、子どもだからできないではなく、大人と同じ目線で、差別しないでやってくれているところに人柄を感じました。
- 数年前に宮城の北海道フェスというものに行ったんですけども、お店の方が来てくださって、顔と顔を合わせたところで笑顔で話していただいたところにおもてなしを感じました。

- 市長** ○僕がいろいろ行って、極端に分かるのはタクシーの運転手さんですね。今、東京のタクシーはすごくサービスいいです。その一方で、地方はむすっとして、タクシーはすごく大事ななという感じはしますね。

(6) 高齢者・外国人・障がい者が住みやすいまち

- 駅前の信号機が短いなと思っていて、お年寄りの方が手押し車とか押して歩っていると、結構ギリギリなので、少しでも長くなったら安心して渡れるのではないかなと思っています。
- 私のクラスメイトに帰国子女がいて、いろいろな外国人と話して自分の英語力を保持したいと言っていたので、そういう機会もあったらいいのかなと思いました。
- 学校の帰り道に車が多いところはすごく危険だと思うので、改善しやすいよう気が配れるような感じだといいなと思います。

市長

- 今度、南福島駅はエレベーターつけます。これもいわゆる費用対効果が悪いところだと、できないんですよね、南福島駅は結構利用客が多くて、それは来年度やろうかなということで、今、議会に予算案を出しています。
- 危険と思うところは、市役所にメールで送ってもらえるとありがたいです。道路の陥没とかだったら、LINEで市役所とお友達になってもらえれば、写真で通報できる仕組みになっていますから、ぜひ使ってもらえるとありがたいなと思います。



(7) 高校生フェスティバルでの意見を受けてやってみたいこと

- 「勉強×カフェ」
勉強場所の確保と、甘いものを食べながらやりたいなという声があったので考えました。スターバックスやドトールでも勉強している人もいますが、お店の回転率が悪くなるので、近くに勉強スペースをつくらせたいのかなと思いました。
- 「パーティションのあるスペース×勉強場所」
アオウゼみたいな立派なところじゃなくてもいいので、周りを気にせずに勉強に集中できたり、電車を待つ少しの時間に勉強できるような、気軽に利用できるスペースがあればいいなと思いました。

●「カフェ×動物」

癒やされたいという人が結構いて、MAXの5階にあるような場所がもっとあったらいいのかなと思いました。

●「外国人×学生または市民の方」

外国人と日本人が交流する場所があったらいいなとかと思いました。外国人は日本語の勉強になり、福島のいいところをもっと知ってもらえるような機会になるのかなと思います。学生だったら異文化理解や外国語の勉強のモチベーションアップにつながり、勉強する機会になると思います。

●「福島市の魅力発信×学生または市民の方」

福島市の建物や名産品、福島の水をプロデュースできる企画があったら楽しいと思います。インスタとかで穴場スポットを募集することで、いろいろなところが知れるかなと思います。また、文化と触れ合えるようなイベントで、市民の方により福島を知ってもらい、県外や海外の方にも福島に良いイメージを持ってもらうきっかけになるかなと思いました。

●「学生、市民の方×運動×なるようになれ！クッキング！」

みんなで大規模運動会を開くことで、地域活性化にもつながり楽しくなると思います。

なるようになれクッキングは、チームをつくってくださいと言ったら、普通は知っている人で密集すると思いますが、みんなバラバラなチームになれば、そこから新しいコミュニティーとか友達がつくれるかなと思いました。

市長

○私自身、空き店舗を何とかしたいと思っていて、今回は起業者にも空き店舗を使ってもらおうかなと考えています。

もし、我々が場所を貸すとしたら、高校生たちで運営しますか？例えば四小の前の幼稚園、何も使ってないけど、ちょっと耐震性が問題なのかな。高校生が、自分たちで使い方を考えたり、DIYやったり、あるいは工業高校とかの実業系のところの生徒とやったり、そのほうがみんな自分のもので大事にするし、工夫するだろうから、そういうのを考えてもいいかな、なんて今思いました。



(8) その他

- 福島市で探究活動やFCNの活動に対しての意識の改革を呼びかけていただいたりすると、話が進みやすくなるのかなとも思います。
- どうやったら外国人を呼べるんだろうと思っているんですけども、アドバイスをちょっともらいたいなと思っています。

市長 ○外国人のつながりに関しては、定住交流課都市間交流係が、外国人の皆さんの窓口をやっています。ここに国際交流員がいて、日本語も堪能です。そういう人たちとつながると、自分自身でもやってくれるだろうし、あともっと多国籍で知りたいんだったら、そこからいろいろな外国人の人たちとコンタクト取れると思います。

【3 まとめ】

あえて僕も皆さんに反論しましたが、議論って、否定はしちゃいけないですが、こういうのはちょっとどうなのとかいうのはもっと言うべきだと思います。単に、理想だけの議論をしていたら、深まらないし全然実現しないと思います。

僕は、とにかくいろいろなことに対していいなと、だけどそれに関してはこういう問題があるんじゃないかとか、こういう面はどうだろうという批判のものをぶち当てて、その上で乗り越えられることをやっているつもりなんですよね。あるいは、場合によってはできないようなものは捨てるし、その中で可能性の高いものや、より効果の高いものからやらないとで、限られた資源というものはあるわけですよ。

皆さんも、こういう勉強したいといっても、時間には制限あるので、その中で何を大事にするかを日頃考えていると思います。その点では、常にいいことはいいし、あまり否定してはいけないんだろうけれども、それに対するいろいろな疑問点とかは、もっと深められる議論をしていくのが必要じゃないのかなという気がします。

今後、せっかくいろいろな勉強の場やるんだったら、疑問なり何なりぶつけ合ってほしいです。ただ、意見の対立は、感情の対立に絶対しちゃいけないというルールを持って、相手には敬意は持って、意見は多様性で、それぞれいっぱい持っています。それをどうやって実現するかに関しては、現実に詰めていかなきゃいけないので、そういう議論を、これをきっかけにやってもらえると本当にありがたいなと思います。



出席者の感想

- 市長が、一人一人指名して、質問や意見に応じてくれたり、アドバイスをくれたのでとても話しやすかったです。
- 市長と意見を共有することができ、とても魅力的な事業でした。自分たちの理想を発信し、現実に落とし込む作業は想像以上に難しかったですが、こうしてまちづくりが行われているのだと思うと、とても楽しかったです。要望をあげるとしたら、ひとつのプランについて深めていく様な議論もしたかったです。今回は個人の「住みたいまち」を挙げただけでしたが、実際に実現までやってみたいです。また、トークイベントを一回だけではなく、定期的に複数回やりたいです。第一回目はプレスト感覚で意見を出し合い、第二回目は一回目が出た中で実現性が高いものを実際に企画してみる。第三回以降は他の方の意見を聞いて、準備をするなどこのようなことをしたいです。
- 日程は参加しやすい日曜日で開催する時間もちょうどよく感じました。
テーマは私たちの取り組んでいる活動に関してでしたので、市長から学べることも多く有意義なものでした。進め方としてはTVのトークという感覚でした。ですが、要点の確認や言いたい事に対する回答等分かりやすかったです。あの形態が良い感じました。

